

## 献 辞

中村剛治郎教授は、平成24年3月末日をもって横浜国立大学を退職されました。ここに、『エコノミア』第63号第1号を先生に捧げ、長年にわたる経済学部及び横浜経済学会へのご貢献に対する感謝の気持ちを表したいと思えます。

中村先生は、昭和45年3月に新潟大学人文学部経済学科をご卒業され、大阪市立大学大学院経営学研究科博士課程で地域経済論を専攻されました。金沢大学経済学部で専任講師、助教授を経験された後、昭和59年に本学部に助教授として着任されました。平成元年には教授に昇任され、その後、大学院国際社会科学研究所教授に配置換えとなり、経済学部だけでなく大学院においても教育に参画されました。

中村先生が指導に当たられた演習の出身者は、学界だけでなく、弁護士、会計士など多岐にわたる分野で活躍されており、実社会に貢献する高度専門職業人の育成に尽力されてこられました。また、ご著書の『地域政治経済学』は、多くの大学で採用された教科書です。

この間、学内行政面では、経済学部附属貿易文献資料センター長の任に5年にわたり当たられ、従来の文献資料収集中心から研究を中心とするセンターへ発展転化する道を切り拓かれました。ちょうど今年度、特別経費というかたちで国の財政的支援も受けて、貿易文献資料センターはアジア経済社会研究センターへと発展的に改組されたところです。正に今般の改組につながる礎を築かれたと評価されます。財に限定された貿易から我が国と緊密な関係にあるアジアの広く経済社会の問題へ、そして文献を収集する資料室的機能から資料・データを活用した主体的な研究の場へと、今日の現実社会の変貌に的確に対応した抜本的改組が可能となったのも、中村先生の当時のご貢献があつてのことと言えます。

先生のご研究分野は、地域経済政策論、地域経済学ですが、従来の公共投資に焦点を当てた議論から、地域における産業連関による発展という新しい地域開発研究を指向されました。国際競争の激化とインターネットの普及によりグローバル化が強く意識される今日にあつて、先生が研究対象とされた地域経済は、企業、政府、生活者の観点から改めて注目を集めているところです。先生は、金沢やポートランドに関する具体的な事例に基づく地域発展モデルを提唱され、神奈川県や金沢市の地域経済政策にも積極的に関与されました。こうした業績は、学会においても高く評価され、日本地域経済学会会長に2期5年にわたって選出されています。

定年よりも1年早いご退職ではありましたが、長年にわたり経済学部の教育研究や大学運営へのご貢献には大きなものがありました。改めて感謝の念を深めるとともに、先生が新たな場で一層のご活躍をなさることを心からご祈念申し上げます。

平成24年5月

横浜経済学会長（横浜国立大学経済学部長）

富浦 英一